

日本中東学会ニューズレター

JAMES
NEWSLETTER



No.161
2021/3/30

目 次

第 19 期理事会（2021～22 年度）役員選挙の結果.....	1
第 18 期・第 19 期新旧合同理事会報告.....	2
第 37 回年次大会参加申し込み方法および暫定プログラム.....	3
『日本中東学会年報（AJAMES）』編集委員会報告.....	7
地域研究学会連絡協議会 2020 年度総会報告および GEAHSS 加盟 8 会長の任期を終えて.....	9
寄贈図書.....	11
会員の異動.....	12
事務局より.....	13
編集後記.....	13

第 19 期理事会（2021～22 年度）役員選挙の結果

評議員選挙については、2020 年 12 月 23 日に開票の結果、学会細則 VIII-2 により、第 19 期の評議員は以下の 60 名で確定しました。有権者 386 名のうち、投票者数 180 名（うち有効票 180、無効票 0、白票 0）、投票率は 46.6%でした。

青山弘之、赤堀雅幸、秋葉淳、飯塚正人、五十嵐大介、
今井宏平、岩崎えり奈、岩崎葉子、鷗戸聡、江川ひかり、
大川真由子、大川玲子、大河原知樹、大塚修、大稔哲也、
岡真理、帯谷知可、粕谷元、勝沼聡、菊地達也、

私市正年、北澤義之、栗田禎子、黒木英充、小杉泰、
後藤絵美、小林春夫、小松久男、近藤信彰、齋藤剛、
酒井啓子、佐々木紳、佐藤健太郎、澤江史子、清水和裕、
末近浩太、鈴木啓之、鷹木恵子、竹村和朗、辻上奈美江、
鶴見太郎、東長靖、長岡慎介、長沢栄治、中町信孝、
錦田愛子、林佳世子、深見奈緒子、保坂修司、堀井聡江、
松尾昌樹、松本弘、三浦徹、三沢伸生、嶺崎寛子、
村上薫、森本一夫、森山央朗、山岸智子、横田貴之（50音順、敬称略）

評議員選挙に続き、新評議員による理事選挙が行われ、2021年1月8日の開票の結果、以下の15名が選出されました。なお、理事選挙にあたり会則第9条の規定により大稔哲也、黒木英充、近藤信彰、東長靖、森山央朗、山岸智子の各評議員は理事選挙の被選挙権を有さないため、予め理事候補より除外されました。投票者数26名（うち有効票26、無効票0、白票0）、投票率は43.3%でした。

青山弘之、秋葉淳、岩崎えり奈、江川ひかり、大川真由子、
粕谷元、勝沼聡、菊地達也、後藤絵美、佐藤健太郎、
末近浩太、錦田愛子、保坂修司、森本一夫、横田貴之（50音順、敬称略）
（竹村和朗 選挙管理委員長）

第18期・第19期新旧合同理事会報告

日時：2021年2月1日（月） 16:00～18:00

場所：オンライン会議

出席：大稔哲也、黒木英充、近藤信彰、東長靖、三沢伸生、森山央朗、安田慎、山岸智子（以上第18期）、秋葉淳、江川ひかり、勝沼聡、菊地達也、末近浩太、錦田愛子、横田貴之（以上第18期兼第19期）、大川真由子、粕谷元、後藤絵美、佐藤健太郎、森本一夫（以上第19期）

欠席：岩崎えり奈（以上第18期兼第19期、委任状あり）、青山弘之、保坂修司（以上第19期、委任状あり）

1. 科研費の申請(2022年度)について申し送りがあった。
2. 事務局の書類の扱いについて申し送った。
3. AJAMES バックナンバーの保管について申し送った。
4. 第37回年次大会は立命館大学、2022年度第38回年次大会は早稲田大学中東イスラーム研究コースが開催することについて説明があった。また、第37回大会の準備状況について報告があった。
5. 日本学術会議問題への対応について申し送った。
6. 新旧理事の引き継ぎ事項について第18期の各理事から申し送りがなされた。

7. 第8回日本中東学会奨励賞の選考について報告があった。
8. 国際文献社の監査について報告があった。
(以下、第19期理事予定者のみによる打ち合わせ)
9. 出席者の互選により、保坂修司理事予定者を第19期会長として選任した。
10. 第19期理事の職掌分担について議論した(継続審議)。
(秋葉淳 ニュースレター・議事録担当理事)

第37回年次大会参加申し込み方法および暫定プログラム

日本中東学会第37回年次大会が、2021年5月15日(土)および16日(日)にZoomを使用してオンラインで開催されます。

1. 参加申し込みについて

日本中東学会第37回年次大会への参加事前申込は、5月1日(土)までとさせていただきます。学会メーリングリストにて、追って登録フォームを送付いたしますので、そちらに登録の上、大会参加費1000円を以下の口座にお振り込みください。

みずほ銀行 神戸支店 (店番号490) (普) 口座番号3079385

名義：日本中東学会第37回年次大会実行委員会

(ニホンチュウトウガッカイダイ37カイネンジタイカイジッコウイインカイ)

2. 託児費用の補助について

大会一日目・二日目ともに、託児サービスへの費用補助を予定しております。お子様一人につき、一日あたり5000円を上限に費用を補助いたします。学会メーリングリストにて、追って登録フォームを送付いたしますので、案内をお待ちください。

3. 研究発表について

2日目(5月16日)の研究発表につきましては、個別発表35件、企画セッション1件の応募がありました。応募をいただき、誠にありがとうございます。

暫定プログラムは後段の通りです。今後、発表予定者の都合などによる変更の可能性のありますこと、よろしくご了承下さい。

4. 日本中東学会第37回年次大会暫定プログラム(2021年3月16日現在)

日時：2021年5月15日(土)、16日(日)

会場：Zoomを利用したオンライン開催

第1日：2021年5月15日(土) ※Zoomウェビナー

13:00～16:50 公開講演会

「危機に対応する中東地域研究：9.11 事件から 20 年、「アラブの春」から 10 年、
コロナ危機から 1 年」

現代の中東では、およそ 10 年おきにそれまでの秩序を大きく揺さぶるような危機が起こってきた。21 世紀に入ってから、2001 年の 9.11 事件、2011 年の「アラブの春」、そして、2020 年から今日にかけてのコロナ危機によって、中東各国の政治や社会のあり方のみならず、中東という地域の国際社会における位置づけや役割は想定外の変化を余儀なくされてきた。

こうした危機は、必然的に中東地域研究のあり方に見直しを迫ることとなったが、それと同時に、新たな現実を捉えるための学知を生み出すことを促進してきた。学際性を強みとしてきた中東地域研究は、歴史学、宗教学、人類学、政治学、国際関係学などの知見を融合・再編するかたちで、中東という地域の動態を掴もうとしてきた。

本公開講演会では、9.11 事件、「アラブの春」、コロナ危機からそれぞれの 20 年、10 年、1 年の節目となる今年 2021 年において、これらの危機によって生まれた新たな現実とは何であったか、それに対応するために中東地域研究はどのようにアップデート／アップグレードをしてきたのか、そして、どのような課題を残してきたのかについて、考えてみたい。そして、この作業を通して、中東地域研究が日本における中東理解に貢献してきたことをあらためて確認し、社会に向けて発信する。

プログラム：

司会：鳥山純子（立命館大学／大会実行委員）

開会挨拶：末近浩太（立命館大学／大会実行委員長）

13:05～13:35 報告者①：保坂修司（日本エネルギー経済研究所）「9.11 事件から 20 年：日本にとって 9.11 事件とは何だったのか？」

13:35～14:05 報告者②：横田貴之（明治大学）「「アラブの春」から 10 年：中東政治と中東政治研究の現在」

14:05～14:35 報告者③：黒木英充（東京外国語大学）「コロナ危機から 1 年、スペイン風邪から 100 年：COVID-19 の先の中東と中東研究」

14:35～14:50 休憩

14:50～15:05 討論者①：今井宏平（日本貿易振興機構アジア経済研究所）

15:05～15:20 討論者②：酒井啓子（千葉大学）

15:20～15:50 全体討論

16:00～17:00 日本中東学会総会

第 2 日：2019 年 5 月 16 日（日）※Zoom

13:30～15:00 企画セッション

9:00～10:20／10:40～12:00／15:10～16:30 個人研究発表

10:20～10:35／12:00～12:15／16:30～16:45 懇談時間（個人研究発表 2 名ごとに、間に懇談時間を設けております）

*氏名の右側の（ ）内は所属。J は大学院生を指す。

【企画セッション】

13:30～15:00 「文学をとおしてアラビア語を教える」

司会：榮谷温子（慶應義塾大学）

発表者：近藤久美子（大阪大学）「日本文学作品のアラビア語翻訳について」

オーハン・エルマス（セント・アンドルーズ大学）「Teaching Arabic through the Nights（英語による発表）」

モハンマド・ファトヒー（東京外国語大学）「リーディング教材をコミュニケーションタイプに：タウフィーク・アルハキームの作品を使った授業実践」

コメンテーター：ハルドゥーン・フセイン（東京外国語大学）

【個人研究発表】

第1部会

9:00～9:40 ハルドゥーン・フセイン（東京外国語大学）「History of the Fatwas of Takfir since the Abbasid Caliphate and its political influence: The Fatwas of Ibn Taymiyyah as an example」

9:40～10:20 堀井聡江（桜美林大学）「効果判決と有効判決—イスラーム訴訟法における既判力」

10:40～11:20 篠田知暁（東京外国語大学）「サード朝期グマラ地方の「駆け落ち騒動」から見る山村の法学者」

11:20～12:00 平寛多朗（日本学術振興会）「チュニジアの中等学校におけるアラビア語教育」

15:10～15:50 ヘバタッター・オマル（名古屋大学 J）「アラブの語り物をめぐる考察—ジェンダーの向こうで」

第2部会

9:00～9:40 モハンマド・ファトヒー（東京外国語大学）「Zoom 及び G Suite を用いたアラビア語のオンライン授業の取り組み」

9:40～10:20 竹田敏之（京都大学）「現代アラビア語における「標準」とは何か：クルアーン読誦流派の影響とその実証的考察」

10:40～11:20 アルモーメン・アブドラー（東海大学）「日ア語によるテキスト翻訳に見る異文化伝達とそのアプローチ」

- 11:20～12:00 村上武則（京都大学 J）「クルド語の定義とその操作」
 15:10～15:50 岡崎英樹（四天王寺大学）「10 世紀のアラブ文法学における 5 分類」
 15:50～16:30 榮谷温子（慶應義塾大学）「アラビア語エジプト方言の従属節におけるテンス・アスペクト」

第3 部会

- 9:00～9:40 白谷望（愛知県立大学）「モロッコにおける分断的な政治領域の形成と再生産」
 9:40～10:20 木戸皓平（東京外国語大学 J）「外部介入を招く外交のコンシステンシーとインコンシステンシー：2000 年以降のシリアを事例に」
 10:40～11:20 ケイワン・アブドリ（神奈川大学）「イスラーム革命防衛隊」とイラン経済：「経済アクターである軍隊」の一事例
 11:20～12:00 徳永 佳晃（東京大学 J）「イランにおける議会政治の再始動：第 1 次ガヴァーム内閣（1921-1922）の財政改革」
 15:10～15:50 鈴木慶孝（大阪経済法科大学）「トルコの移民難民統合に関する批判的一考察：国民社会との「調和（Uyum）」をめぐる問いから」
 15:50～16:30 小林和香子（独立研究者）「イスラエル人女性による平和運動「Women Wage Peace」の挑戦」

第4 部会

- 9:00～9:40 濱田聖子（東京大学）「9 世紀における著書執筆の諸相：ジャーヒズを例として」
 9:40～10:20 辻大地（九州大学 J）「アッバース朝期イスラーム社会における「異性装」」
 10:40～11:20 成地草太（明治大学 J）「オスマン帝国におけるチェルケス人難民と地方住民との衝突：1860 年代後半のラズィスタン県知事文書にみるバトゥミ郡の事例」
 11:20～12:00 矢本彩（明治大学 J）「オスマン帝国における 1909 年「3 月 31 日事件」および『火山』紙の政治的側面」
 15:10～15:50 田中雅人（東京大学 J）「レバノン山地特別県のムスタファー・アルスラーンとその一族：19 世紀後半から 20 世紀初頭のドルーズ派有力者とオスマン朝」
 15:50～16:30 坂田舜（九州大学 J）「オスマン帝国末期における諸民族女性観に関する考察」

第5 部会

- 9:00～9:40 外山健二（山口大学）「ホイットマンとスーフィズム」
 9:40～10:20 本間流星（京都大学 J）「植民地期南アジアにおけるスーフィズム思想：アシュラフ・アリー・ターナヴィーの存在一性論とイブン・アラビー擁護」

の論理」

- 10:40～11:20 福永浩一（上智大学）「イスラーム中道派思想家によるスーフイズム解釈」
- 11:20～12:00 早川英明（東京大学 J）「レバノンの共産主義者たちはキリスト教徒をどのように表象したか」
- 15:10～15:50 渡邊文佳（早稲田大学 J）「アッラール・アル＝ファースイーのマッシュリク講演にみるモロッコ・ナショナリズムの主張」
- 15:50～16:30 岡崎弘樹（日本学術振興会）「シリアの作家は暴力とレイシズムの「反復」をいかに理解したのか？」

第6部会

- 9:00～9:40 幸加木文（千葉大学）「トルコの人権問題に関する議論の批判的検討」
- 9:40～10:20 小山友（千葉大学 J）「オランダの親トルコ政党に対する再評価：2021年3月の下院議会選挙における動向と選挙結果を中心に」
- 10:40～11:20 小島宏（早稲田大学）「ベルギーのムスリム若者における宗教実践と初婚タイミング」
- 11:20～12:00 望月葵（京都大学 J）「ヨーロッパにおけるシリア難民の社会的包摂：帰属とシティズンシップをめぐって」
- 15:10～15:50 イ・ジンヘ（日本学術振興会）「中央アジアにおける多民族共存とエスニックマイノリティ：カザフスタンの高麗人（コリョ・サラム）を事例に」
- 15:50～16:30 桐原翠（日本学術振興会）「ハラール産業研究の視座と射程：イスラーム経済・イスラーム法・食の多文化共生」

5. 大会についての連絡先

日本中東学会第37回年次大会実行委員会事務局
〒567-8570

大阪府茨木市岩倉町2-150 立命館大学大阪・いばらきキャンパス
立命館アジア・日本研究機構 黒田研究室

E-mail: james2021ritsumei@gmail.com

（第37回年次大会実行委員長 末近浩太）

『日本中東学会年報（AJAMES）』編集委員会報告

1. 37-1号 現在編集中

37-1号は、7月の刊行を目指して編集作業を鋭意進めております。論文3本、研究ノート1本、資料紹介1本、博士論文要旨2本を掲載すべく、作業しております。

2. 37-2号 投稿締切

37-2号の締切は6月1日です。論文、研究ノート、書評等さまざまなジャンルでの投稿をお待ちしております。とくに欧文での投稿を推奨、歓迎しております。また、英文による特集の企画がありましたら、ぜひご投稿ください。

3. 博士論文要旨

AJAMES では、会員による中東関連の博士論文要旨（英文）を掲載しています。とくに締切を設けておりませんので、最近博士論文を提出された会員の方は、随時ご投稿ください。また、お近くに中東関連で博士論文を提出された方がいらっしゃれば、ぜひ投稿を呼びかけてください。

本誌に関するお問い合わせ先は編集委員長の交代に伴い、4月から変更になります。メールアドレスは変更ありませんので、こちらにご連絡ください。

『日本中東学会年報』編集委員会

E-mail: ajames-editor@james1985.org

(横田貴之 AJAMES 編集委員長)

地域研究学会連絡協議会 2020 年度総会報告および GEAHSS 加盟

2020年12月12日（土）に、オンラインで地域研究学会連絡協議会（JCASA）の年次総会が行われた。本来なら渉外担当である筆者が参加しなければならないのだが、公務のため安田事務局長に代理出席していただいた。本年の総会では、まず事業報告と会計報告がおこなわれ、事業の収入に比べて支出が少ない状態が続いており、引き続き旅費の支出が考えにくい状況にあることから、2021-2022 年度分の会費徴収を延期することが提案され承認された。報告事項としては、現事務局が移行することや、2020年10月15日付けで発出された、日本学術会議第25期新規会員任命に関する緊急声明についての説明があった。地域研究学会連絡協議会の活動については、協議会のサイト（<http://www.jcas.jp/asjcasa/index-j.html>）をご参照いただきたい。

2020年度の総会で人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会（GEAHSS）加盟が承認されたことを受け、その後入会のための手続きがおこなわれた。入会承認後の2020年9月26日（土）には、筆者が第6回 GEAHSS 運営委員会（オンライン）に出席した。当運営委員会では、2019年10月1日～2020年9月30日間の活動報告、決算報告がまずはおこなわれ、加盟学協会が69になったとの報告があった。審議事項においては、第4期の委員長として GEAHSS 役員会より青野篤子（日本心理学会）、副委員長として吉原雅子（日本哲学会）が提案され、投票の結果承認され、総合ジェンダー分科会との共催でシンポジウムが開催されることが決定した。また、2020年11月には、GEAHSS 加盟を受けてはじめて「GEAHSS グッド・プラクティスに関するアンケート」に回答したが、セクシャル・ハラスメントへの対応、男女共同参画に関するワーキンググループや委員会の設置、女性研究者への支援、SOGI など性の多様性へ

の配慮など、これまで特段の検討がおこなわれてこなかった事項も多かった。GEAHSS 加盟により、男女共同参画については日本中東学会も様々な課題を抱えていることが浮き彫りになったとも言えよう。GEAHSS の活動や調査報告については連絡会のサイト (<https://geahssoffice.wixsite.com/geahss/geahss>) をご参照いただきたい。

(菊地達也 渉外担当理事)

会長の任期を終えて

大稔哲也

怒涛の一年が過ぎようとしています。順風のもとにあると思われた本学会の運営は、新型コロナウイルス禍の拡大によって、一気に異次元へ移りました。そのため、私が皆様の面前でご挨拶する機会も秋田の年次大会のみとなってしまい、しかもその出席者数は限られていましたので、印象は希薄であったかも知れません。そこで、新型コロナ禍と日本学術会議問題という二重苦のもとで、どのように学会運営に当たってきたのか、ここに書き留めておきたいと思います。

一昨年、会長職をお引き受けするに当たって、従来の業務に加えて、任期中に大きな一点突破と、付随する幾つかの改革の実現を念頭に置いて臨みました。その一点とは、学会運営の部分的業務委託であり、これによって会長交代のたびに生じてきた事務局長探しの困難と、事務局長に強いてきた個人的な犠牲を少しでも軽減することを意図しました。背景には、本学会も 35 年を経て業務が肥大化しつつあることや、大学や研究機関がかつてのような余力を失ったことも挙げられましょう。幸い総会を通じて、この委託は皆様のご賛同を得ることができました。今後、委託先の運営状況については、厳しいチェックを継続いたします。加えて、「人文社会科学系学協会における男女共同参画推進連絡会(GEAHSS 略称ギース)」への参加や、事務局長職の会則への位置づけなども予定通りに行なうことができました。

これらの作業中に発生したのがコロナ禍です。2020 年 2 月以降は、会員の皆様の健康をいかに守るかという点を、すべての活動の第一義に据えて参りました。このため、総会の懇親会中止、総会のオンライン化、大会研究発表のオンライン代替開催、公開講演会のオンライン開催などを進めてきました。いずれも一つとして前例はなく、そのたびに議論を尽くしたうえで、手続きを整えました。もちろん、すべては孤独な決断の積み重ねに基づいています。臨時やメールによる理事会審議以外にも、関係者を個別に説得し、たとえ 2 度メールして叶わずとも、3 度目に電話でご説明すると、皆様ご納得くださいました。しかし、無理なお願いの過程で、私自身も幾人かとの友情に亀裂が入った気がします。ただ、ここで強調しておきたいのは、外からは遅々として進まなかったように見える学会運営も、内部ではそれだけの熟議を重ねて、対応していたという点です。

また、コロナ禍への対策として、学会としても何かできないか、悩み続けました。

そして、周囲の大学院生、非常勤講師の方々の経済的苦境に接して、学生会員・会費減額措置会員の会費免除(今年度)という案を思いつくに至りました。こちらも数か月にわたって様々な調整を続け、さらに寄付も加えて、総会でお認めいただきました。この対応策は他学会にも採用していただきました。ただ、コロナ禍対策のアイデアの全てが実を結んだわけではなく、例えば公開講演会(あるいは学会による研究会共催)などでのコロナ禍対応という案には、そんな安易なことではいけないとお諫めいただきました。

そうこうしている所に、日本学術会議会員の任命拒否問題が生じました。日本中東学会も同会議の協力団体であり、現在に至るまで同会議の委員や監事などを輩出してきた経緯もあって、新聞に公表された当日より対応を始めました。そして、本学会単独で声明を発出したほか、地域研究学会連絡協議会や人文・社会系学協議会連絡会を通じた共同声明にも参加しました。いずれも瞬時の対応を迫られたため、議論の末、理事会名や会長名による発出となっています。

この件については、会員の皆様にも様々なご意見があることと存じます。しかし、まずは日本学術会議の活動内容とその日本中東学会とのかかわりについて、事実を知っていただきたいという思いから、学会ホームページに特設コーナーを用意しました。栗田元会長、板垣元会長、小松元理事から貴重なご寄稿をいただきましたことに、感謝の念は尽きません。

これら以外に、巡り合わせから引き受けざるを得なかった案件として、会費前納制の廃止があります。これは何代にもわたって理事会で協議されてきたもので、我々の前の理事会において既に決定され申し送りされてきた案件でした。私自身、過去の強い反対論を承知しておりますので、理事会で本学会の『30年史』の関連箇所を読み上げたほどです。しかし、今回、2年次にわたる総会での公示後に、総会で承認されました。制度こそ変更されますが、前納制に込められてきた学会創設期の息吹と主体的参加の精神は、今後も決して忘れることなく引き継がれていかなければなりません。

さて、コロナ禍が本学会の運営や中東研究にもたらした功罪については、これまでも折に触れて言及して参りました。中東の地域研究を旨とする我々にとって、どれほどオンライン空間で擬似現実感をつなごうとも、現地へ行けないことは間違いなく痛手でしょう。とりわけ、私は現地の人々と腹を割った付き合いの重要性や、身体性を通じた現地感覚の復権を一昨年ニューズレターで訴えましたので、なおさらその感を強くしています。

一方、本学会運営のオンライン化については、先述のように多大な労力を伴いましたが、悪いことばかりでもありませんでした。例えば、総会はオンラインで行ったために、例年以上に内容をしっかりご吟味いただけたのではないかと想像します。理事会もオンライン開催となり、オンラインの初回は、関西の理事も含めて全員出席でした。しかし、オンライン理事会の魔法も2回目以降はあっという間に霧散し、やはりいつも通りに多忙が勝って欠席者が出ました。それでもなお、理事会におけるオンラ

イン併用は今後も有効であると考えられますし、それによって理事や事務局の選択の幅も大きく広がりましょう。実際、次期には初めて北海道大学から佐藤健太郎理事が選出されましたし、今回の事務局長も高崎経済大学の安田慎理事でした。

本学会の大会研究発表も、オンライン化して参加者数が増えた部会は多かったようです。とりわけ、例年、大会プログラムの2日目午後には帰途につかざるを得ない会員も多いのですが、今回は最後まで参加者が減りませんでした。また、公開講演会も含めて、地理的な不利は明らかに解消されますので、今後も何らかの形で利用は有効でしょう。

では最後になりますが、平時であれば、今期理事会でもっと取り組みたかった学会員の拡大や国際交流のさらなる活性化は、次期理事会に託したいと思います。世界はこの一年、さらに多くの苦しみを分かち合ってきました。コロナ禍の混乱下で身近な人を喪うという経験は、私自身のものでもありました。しかし、世界は否応なく次の時代へ進まざるを得ず、もはや戻ることはありません。その中で、日本中東学会も現地への想いを絶やすことなく、しぶとく中東研究への情熱を未来へつないでいきたいと思っています。まだ先のことになりますが、2022年春に予定されている学会の年次大会は、私の所属部門(早稲田大学戸山キャンパス/中東・イスラーム研究コース)で引き受けさせていただきます。新装キャンパスで、学会員同士が互いの存在を確かめ合い、再会を祝すという目論見が実現することを願ってやみません。

なお、今期学会運営にご尽力くださった安田慎・事務局長、須永恵美子・事務局補佐、常に私を支えてくださった理事会メンバーの皆様等には、この場を借りて、心より篤く御礼申し上げます。

寄贈図書

【単行本】

松尾 昌樹(著)、森 千香子(著) 『移民現象の新展開(グローバル関係学 6)』岩波新書
2020年12月

大川玲子(著) 『リベラルなイスラーム:自分らしくある宗教講義』慶應義塾大学出版会
2021年1月

中島 悠介(著) 『湾岸アラブ諸国における外国大学分校の質保証』東信堂 2021年2月
池端 露子(著) 『宗教復興と国際政治—ヨルダンとイスラーム協力機構の挑戦—』晃洋書房 2021年2月

山尾 大(著) 『紛争のインパクトをはかる——世論調査と計量テキスト分析からみるイラクの国家と国民の再編——(シリーズ転換期の国際政治 14)』晃洋書房 2021年3月

中村 覚(監修)、末近浩太(編著) 『シリア・レバノン・イラク・イラン(シリーズ・中東政治研究の最前線 2)』ミネルヴァ書房 2021年3月

【逐次刊行物・ジャーナル・その他】

日本アラブ協会『アラブ 冬号—特集 バイデンの中東・世界』第174号 2021年1月

会員の異動

【新入会員】

柏木 健一 筑波大学
山崎 望生 関西外国語大学
新谷 恵司
武田 歩

【連絡先をご存知ありませんか】

下記の会員の方々は、連絡先が不明なため、学会からのお知らせなどをお届けすることができないでおります。連絡先をご存じの方は、会員窓口までご連絡いただけますよう、ご面倒でもご本人にお伝えいただければ幸いです。

奥田 敦	アレズ ファクレジャハニ	苗村 卓哉	
斎藤 正道	横田 吉昭	餅井 雅大	西舘 康平
沈 雨香	川上 重夫	MORRISON Scott	
阿部 哲	李 若非	蔣 旭棟	Doaa Abbas Zaher

【会員管理「マイページ」導入のお知らせ】

日本中東学会では、会員の皆様の最新の情報を管理運用するために、Web サイト上にマイページ（会員専用ホームページ）を開設致しました。2021年3月10日に、各会員にメールで会員番号とログインパスワードをお伝えしています。住所変更や会費の納入状況の確認などをご活用ください。学会ホームページにもバナーが貼ってあります。

さらに、4月15日からは、マイページ内で会員相互の検索機能がオープンします。これまで2年毎に発行していた会員名簿に変わるもので、お互いの研究テーマや分野、所属などを検索できるようになります。会員相互の交流にご活用ください。

【2021度の会費徴収につきまして】

来年度からは、会員窓口（国際文献社）が会費の徴収を行います。4月に請求書（振込用紙）が郵送される予定ですので、御手元に届きましたらお早めにお振込みください。振込先は、これまで通り郵便振替かゆうちょ銀行の銀行振替になります。住所に変更のある方は「マイページ」よりお早めに変更手続きをお願いいたします。

事務局より

【事務局より】

今回が、高崎からお送りする最後の「事務局より」になります。院生も会員もない地方公立大学で事務局を務められたのは、理事・会員各位のご協力はもちろんのこと、副事務局長として須永恵美子会員、事務局長補佐として飯塚真弓さん、そしてアルバイトで働いてもらった近藤凌馬さん、そして高崎経済大学の教職員の方々のご尽力があったのもです。ここで改めて御礼申し上げます。また、大学の封鎖等で学会業務が滞ることもあり、会員の皆様にはご不便をおかけすることもございましたが、温かい目で見守って頂きました。こちらも併せて御礼申し上げます。

初めての非都市圏の事務局として、当初からリモート体制を念頭に業務の整理をしてまいりましたが、2020年10月に会員窓口（国際文献社内）に一部業務を委託してから、この半年で事務局の体制はかなり身軽になりました。

それでもまだまだ負担は大きく、事務局の学会運営の負担が軽減していくのが急務かと思えます。引き続き、会員の皆様のご協力を仰ぐことができると存じます。

（安田慎 事務局長）

編集後記

2020年度の年度末の押し迫った時期になりましたが、ようやくニューズレターをお届けすることができました。毎度毎度刊行が遅れており、多方面にご迷惑をおかけしております。

また、これが第18期の理事会による最後の号となります。ただし、慣例により新しい期のニューズレターの最初の号は、旧期の担当理事が編集を行うこととなっていますので、次号も私が担当いたします。よろしく願いいたします。

（秋葉淳 ニューズレター担当理事）

日本中東学会ニューズレター 第161号
発行日 2021年3月30日
発行所 日本中東学会事務局

日本中東学会事務局
〒370-0801 群馬県高崎市上並榎町1300
高崎経済大学 安田慎研究室
E-mail: james@james1985.org
<http://www.james1985.org/>
郵便振替口座：00140-0-161096(日本中東学会)
ゆうちょ銀行口座：〇一九店(当)0161096
(ニホンチュウトウガクカイ)